

コンソーシアムのタスクフォースチーム紹介 ～連携開設科目タスクフォースチーム

大学等連携推進法人として認定された“一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム”のもと、他の大学と連携して開設した科目は、自ら開設したものと見なされます。

こうした特例措置を活用するため、タスクフォースチーム（TFT）を設置して、これまで5回会議を重ね、2025年度以降に本格実施する連携開設科目について検討を行ってきました。

本学からは、国際文化学科の阿部真育准教授、文化創造学科の畔津忠博教授、教育研究支援部の藤井佳代教務部門長が委員として参画しています。

タスクフォースでの検討の結果、2022年度末時点で、コンソーシアムとしては「データ科学と社会Ⅰ」、「データ科学と社会Ⅱ」、「知的財産入門」、「データ科学のための基礎数学」、「DX概論」、「統計学概論」、「人工知能（AI）概論」、「地域学」の8科目を連携開設科目として実施することとしました。

この中で、本学から提供する科目は「地域学」となっていますが、山口大学が新たに設置する学環「ひと・まち共創学環」（仮称）に対する科目提供の要請があったことから、「地域学」に加えて「地域文化論」「デザイン思考論」「コミュニティデザイン論」（等、仮称）などを本学から提供することで議論を進めています。

今後、連携開設科目TFTでは、連携開設科目を実施する上で想定されるひるような学年歴や時間割の調整、台風等の自然災害による休講対応、全学休講対応日、予備日、補講日などについて検討を行う予定です。

令和5年度、6年度連携開設科目（試行）一覧

※試行は本学のカリキュラムに合わせて行うため、本学の科目名とは異なります。

年度	学期		科目名	実施方法		
				山口大	県立大	学芸大
令和5年度	前期	セメスター	地域学	オンタイム	対面	—
	後期	セメスター	DX概論	対面	オンタイム (4回分のみ)	—
令和6年度	前期	セメスター	地域学	オンタイム	対面	—
		セメスター	DX概論	対面	—	—
		クォーター1	データ科学と社会Ⅰ	対面	(対面) 1回分のみ	オンタイム
	前期後半(クォーター2)	クォーター2	データ科学と社会Ⅱ	—	オンタイム	オンタイム+ オンデマンド
		知的財産入門	—	—	オンタイム	
	後期	セメスター	DX概論	—	オンタイム	—
セメスター		データ科学のための基礎数学	—	—	オンタイム	

(一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム連携教育プログラム委員会の資料より抜粋)

連携開設科目「地域学/国際文化実践論」の紹介

SPARC推進室ニュースレター第3号で、本学が提供する連携開設科目「地域学」の試行がスタートしたことをお伝えしました。折り返し点を迎えたことから、本学と山口大学の受講生に対して、連携開設科目の評価のための中間授業評価を実施しました。その中で、本学の科目を受講した山口大学生の声をいくつか紹介します。

- ・フィールドワークについて学ぶ授業を山口大学では受けたことがなかったので、先生の様々な地域に出た経験などに触れることができ興味深かった。
- ・先生の話が分かりやすいし面白い。事前と事後の課題があって、予習復習がしやすい。
- ・オンラインであっても連携がしっかりとれていたのが良かった。
- ・良かった点：普段は触れることのできないであろう他大学の先生の経験や考えについて伺うことができ、視野が広がったように感じた点。また、各回の講義でお話くださる先生が異なるため、様々な考えに触れることができた点。
- ・良かった点：より内容に特化したことを受講できる。専門性の高い先生方の講義を聞ける。改善点：もう少し大学間の学生同士で交流があると、もっと活性化するのはないか。
- ・フィールドワークについて、一通り勉強できる授業が山口大学にはなかった(社会調査法やデータの分析等、専門的な授業はあった。)ので、フィールドワークの流れが分かりやすかった。(事前知識があったからかもしれないが……)せっかくなので、もっと県大生とも関わりたい。

本学の学生からも、「他大学の学生が自分たちと違う視点から意見を出していて、新しい発見を得られた。もっとグループワークで他大学との学生同士での交流ができると楽しいと思った。」「自分の大学からは出なかった意見などが聞けて新鮮な気持ちになりました。」といった意見がありました。

SPARC事業では「学生及び教職員の交流」も位置付けられています。今後、学生間交流や教職員交流がさらに進むことが期待されます。

慶南大学校とのPBL交流

2023年2月に慶南大学校から産学副総長ほか5名をお招きしてPBLに係るセミナー「現場密着型地域人材育成 産学研連携教育課程イノベーション」を実施しました（SPARC推進室ニューズレターVol.2）。

フォローアップとして、5月中旬、国際文化学科の林炫情教授が慶南大学校を訪問し、本学のSPARC事業とPBLの運用状況について紹介しました。

慶南大学校では、韓国教育部所管の「大学革新と地域発展～グローバル大学が先導する」助成事業への申請準備を進めています。その中で、両大学におけるSPARC事業、イルモリPBLの事業成果と課題を共有できる場を設けたい、といった提案がなされました。

具体的な検討はこれからとなりますが、今後、両大学の交流がますます活発化することが期待されます。



慶南大学校で本学のSPARC事業について説明をする林炫情教授

第2～4号に続き、室員を紹介します

SPARC推進室 室員紹介⑥

林 省一(はやし しょういち)管理・コーディネーター



2022年10月よりSPARC推進室にお世話になっております管理・コーディネーターの林 省一です。

担当する業務は、SPARC教育プログラムを進めるに当たった大学の連絡・調整や本学におけるSPARC事業の広報、国際文化学部との調整などとなっています。

これまで行政と関連団体に携わり、主に国際、文化、観光といった部署にありました。教育関係の仕事は初めてで戸惑うことも多々ありますが、「地域活性化人材育成事業～SPARC～」によって、地域の未来を担う若者が本学から巣立っていくよう、微力ながらお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

SPARC推進室 室員紹介⑦

渡部あい(わたなべ あい)事務補助員

SPARC推進室で事務を担当しております、渡部あいです。SPARC推進室にいらした方の質問をうかがって、担当の先生へ橋渡しをいたします。他には、デジタルカメラやプロジェクタ、ICレコーダーなどの学習・研究に役立つ物品の貸出もしております。

少し入りづらい雰囲気があるかもしれませんが、遠慮せずにドアを開けてみてください。どんな些細な質問や疑問でも可能な限りお応えして、皆さんの大学生生活を全力でバックアップできるように努めます。



編集後記

連携開設科目の試行（国際文化実践論/地域学）も順調に進み、教学IRタスクフォースチームで検討した授業評価の一環として、学生の声を聴取しました。今回のニューズレターでは、その一部を紹介いたしました。山口大学生からは、本学の先生方の授業がとても良いという声が多く届き、それらの声は山口大学や山口学芸大学にも報告しています。

今後は、連携開設科目に対する授業評価方法の検討のほか、異なる大学間の学年歴や授業時間、振替日の設定など3大学間で事務的な協議を進め、2年後の本格実施に向けて万全な準備を進めていく予定です。

また、6月の定例県議会では、国際文化学部にも再編に関して新たに「情報社会学科」（仮称、構想中）を新設することが報告されました。こうした動きを見て、着実に本学が変わりつつあることを実感している毎日です。